

幾春別川の歴史

History of Ikusyunbetsu River

洪水



水害との戦い

岩見沢河川管内の幾春別川下流域及び旧美唄川流域は地盤高が低く石狩川本流の水位の影響をまともに受けてきました。
記録に残る明治31年からの洪水被害だけでも莫大なものです。石狩川中流域の開拓の歴史は、洪水との闘いであったといえます。

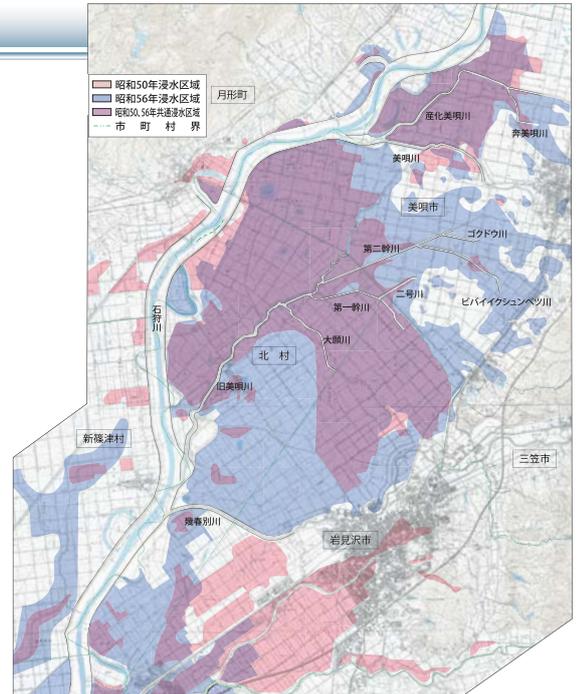
全てを奪う水害の脅威

昭和50年(1975)の洪水

8月、台風6号の影響により北村の旧美唄川右岸と石狩川の堤防(北村築堤)に囲まれた全域が氾濫しました。この洪水により、石狩川のみ唄川合流点から夕張川合流点間がわが国初の「激甚災害対策特別緊急事業」に採択され災害復旧が行われました。



▲昭和50年8月洪水
(岩見沢大橋下流から上流を望む旧美唄川合流点付近)



▲昭和50年8月・56年8月洪水、浸水区域図

昭和56年(1981)の洪水

8月6日、停滞した寒冷前線と台風12号により北海道全域が大雨に見舞われ、石狩川洪水史上最大の洪水が発生しました。北村では幾春別川、旧美唄川の流域で家屋の浸水953棟、農作物被害5,597haと過去最高の被害を記録しました。



▲昭和56年8月洪水
(大願川、美唄川合流点上流の浸水状況)



▲北村市街地氾濫状況
(昭和56年洪水状況写真集より)

▲昭和50年月形市街の氾濫状況
(石狩川流域発展の礎・治水より)

外水氾濫(がいのすいはらん): 川の水が溢れ、または破壊して家屋や田畑が浸水すること。
内水氾濫(ないすいはらん): 堤防から水が溢れなくても、川の水位が高いため低内地(住宅や街などがある側)に降った雨を排水できなくなり引き起こされる氾濫。
破壊(はてい): 河川の堤防や防波堤が、洪水などで壊れること。